2022年の『ユリシーズ』ースティーヴンズの読書会
第11回 セイレン（第11挿話）

2021年4月25日（日）@オンライン

13:30~13:40　ご挨拶（Begin!）
13:40~14:40　第1部　主催者発表「セイレーンの歌声に誘惑されない方法」
14:40~15:30　休憩
15:00~16:00　第2部　ブレイクアウトルーム+ディスカッション
16:00~16:10　休憩
16:10~17:30　第3部　フロアディスカッション+テーマパネル作成
17:40~19:30　懇親会（Done!）

※スライド中で柳瀬尚紀訳『ユリシーズ』（河出書房新社）を引用するにあたっては、「U-Y 挿話番号.ページ数」で表記します。「鼎訳」は丸谷才一らによる集英社訳を指します。

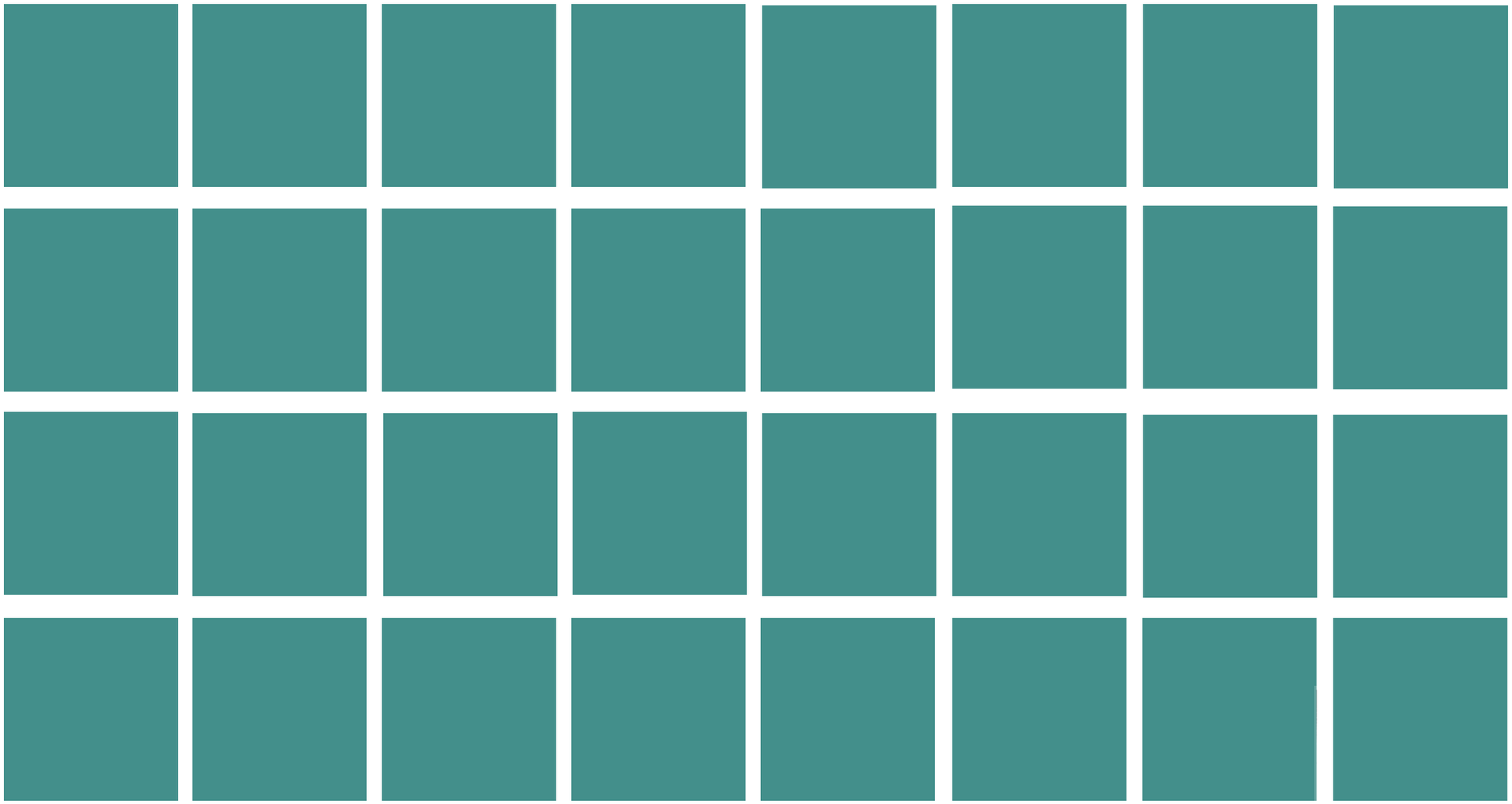
・オーケトストラとしての第11挿話・楽器の割り振りは可能か？
・フーガ形式はどこまで適用可能か？
・bronzeとgoldのアイデンティティを読者はどこで知ることができるか。
・bronzeとgoldはなぜセットで言及されるのか。
・腸弦の謎—具体的には何を示している？
・35000の数字について
・jingleとtapの音の技法について
・ブルームの身体：臓物や腸内の調子の繋がり
・モリーの豊満な身体について
・知られざるブルーム夫妻の歴史
・複数世界の提示にアレンジャーは必要？
・爆笑と性的快感がなぜ結びつくのか？—double entendreの問題—性的な表現の目隠し
・脂ぎとぎと男について—連続するフレーズによって形成される勘違い
・音楽にたいする冷笑的な態度と感傷的な態度
・振動する音楽と生の胎動の関係
・行ったり来たりするリズムの問題
・文学用語「ポリフォニー」の意味
・イギリスとアイルランドのミュージック・ホールの違いについて
・微妙な差異をともなう反復
・冒頭の63行（おふざけ、ジャズのセッション、序曲、あらすじのパロディ）
・冒頭の63行がなくてよいのではないか？—最後に置いてあったら？

2022年の『ユリシーズ』ースティーヴンズの読書会 スケジュール

第1回 2019年6月16日	第4挿話　カリュプソー	Book II. Odyssey	initial style
第2回 2019年8月25日	第1挿話　テレマコス	Book I. Telemachia	initial style
第3回 2019年10月20日	第2挿話　ネストール	Book I. Telemachia	initial style
第4回 2019年12月22日	第3挿話　プロテウス	Book I. Telemachia	initial style
第5回 2020年2月9日	第5挿話　食蓮人たち	Book II. Odyssey	initial style
特別回 2020年4月26日	特別回　第1挿話〜第5挿話	Book II. Odyssey	initial style
第6回 2020年6月28日	第6挿話　ハデス	Book II. Odyssey	initial style
第7回 2020年8月23日	第7挿話　アイオロス	Book II. Odyssey	initial style
第8回 2020年10月25日	第8挿話　ライストリュゴネス族	Book II. Odyssey	initial style
第9回 2020年12月6日	第9挿話　スキュレとカリュブディス	Book II. Odyssey	initial style
第10回 2021年2月21日	第10挿話　さまよう岩々	Book II. Odyssey	initial style
第11回 2021年4月25日	第11挿話　セイレーン	Book II. Odyssey	
第12回 2021年6月	第12挿話　キュクロプス	Book II. Odyssey	
第13回 2021年8月	第13挿話　ナウシカア	Book II. Odyssey	
第14回 2021年10月	第14挿話　太陽神の牛	Book II. Odyssey	
第15回 2021年12月	第15挿話　キルケ	Book III. Nostos	
第16回 2022年2月	第16挿話　エウマイオス	Book III. Nostos	
第17回 2022年4月	第17挿話　イタケ	Book III. Nostos	
第18回 2022年6月16日	第18挿話　ペネロペイア	Book III. Nostos	

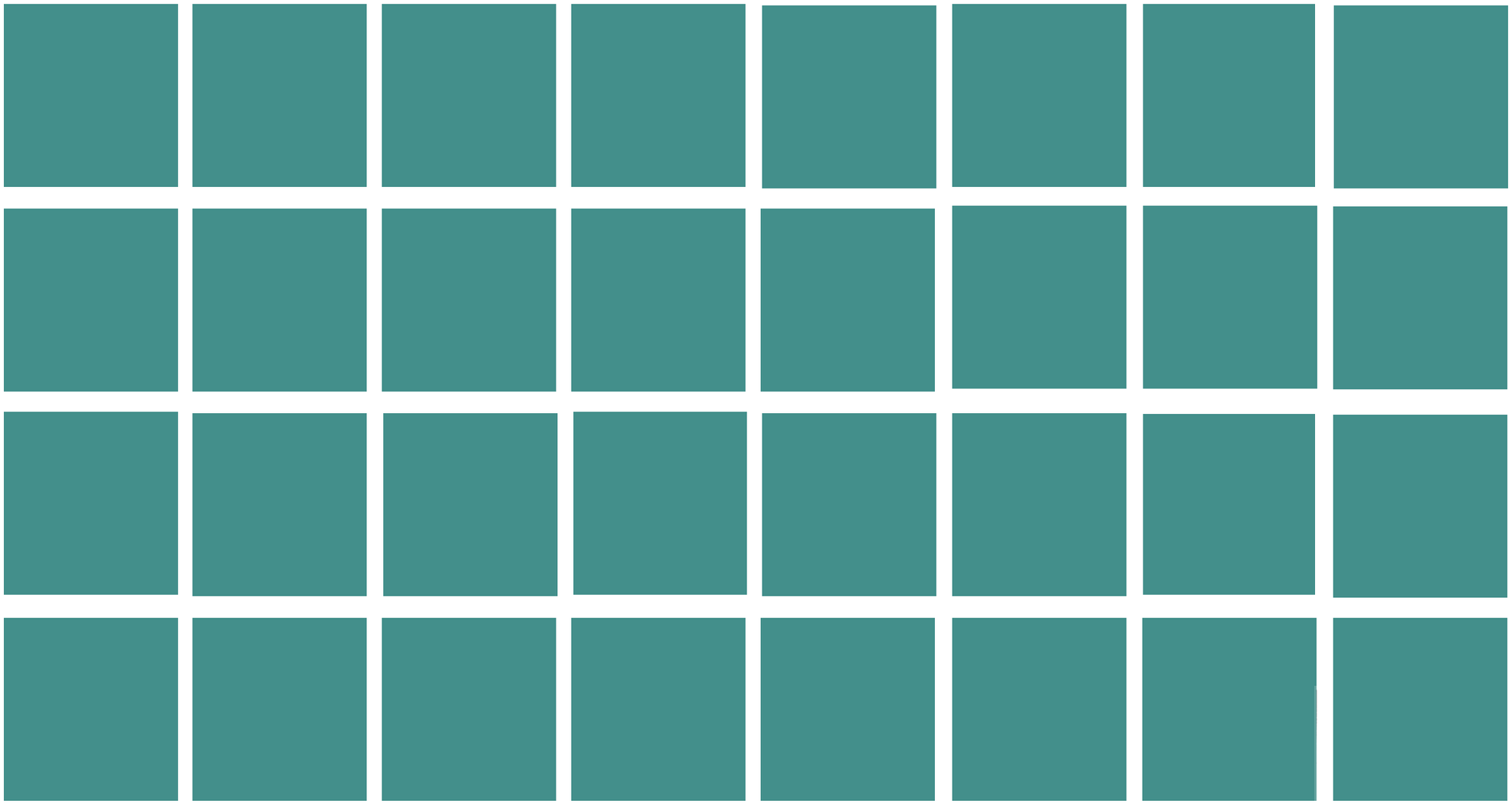
STEPHENS
WORKSHOP
A Critical Directory of Joyce & Irish Studies

Episode 1: Telemachus



“ふんぞり返って、ふくらかなバック・マリガンが階段のてっぺんへ現れた。捧げ持つ石鹸の泡立つ丸い器にのせて、手鏡とカミソリが十文字に...”
（U-Y 1. 11）

Episode 2: Nestor



“ーさあ、コクラン、なんという市が遣いを送った？” “ータレントゥムです。”
“よろしい。それで？” “ー戦争になりました。” “よろしい。どこで？”（U-Y 2. 49）

Episode 3: Proteus

海	波	砂	貝	風	浜	潮	浜
馬	犬	女	男	馬	鴎	鳩	神
目	耳	靴	足	口	歯	臍	洟
死	産	詩	韻	巴	触	汚	溺

“可視態の不可避の様式。少なくともそれ、それ以上ではないにしても、おれの目を通しての思考。万物の署名をおれはここで読み取る”（U-Y 3. 73）

Episode 4: Calypso

猫	肉	食	臓	糞	便	紙	読
牛	乳	血	環	尻	肥	秘	隠
朝	鐘	金	猶	緩	庭	夫	妻
陽	絵	会	魂	出	鍵	失	閨

“リアポウルド・ブルーム氏は禽獣の臓物をうまがる男である。どろっとしたもつがらスープもいいし、こりこりする砂肝、詰め物をして焼いた心臓....”（U-Y 1. 11）

Episode 5: Lotus Eaters

郵	喪	花	茶	東	屍	温	浮
酔	香	水	植	歩	帽	光	沈
紙	聖	性	馬	猫	薬	歌	浴
式	棒	車	喫	煙	石	賭	体

“荷台車の連なるサー・ジョン・ロジャースン船寄せ通りをブルーム氏は粛々と歩いた。ウィンドウミル小路を過ぎ、リークス亜麻仁加工所、郵便電報局を過ぎる…”（U-Y 5. 127）

Episode 6: Hades

肉	血	骨	土	体	臓	心	爪
牛	馬	蹄	犬	鼠	蛆	花	草
屠	回	揺	埋	腐	解	交	流
列	噂	車	父	食	黒	帽	雨

“マーティン・カニンガムが、まず先に、シルクハットの頭をギッーと軋む馬車の中へ差し入れ、するりと乗り込んで席におさまった…”（U-Y 6. 155）

Episode 7: Aeolus

風	機	音	輪	山	詩	煙	教
電	話	止	転	塔	種	弁	学
肺	騒	馬	車	回	鍵	逆	空
心	血	鉄	樽	像	交	字	?

“ネルソン記念柱の前で路面電車は徐行し、待避線に入り、トロリーポールの移動をすませ、そうして発車する。ブラックロック、キングズタウン、ドーキー行き…”（*U*-Y 7. 203）

Episode 8: Lestrygonians

食	吐	歯	臭	鼻	業	環	水
視	盲	口	痛	血	蝿	輪	流
飢	鴎	疫	牛	肉	交	唇	穴
触	臓	汚	屠	骨	想	時	門

“パイナップル氷砂糖、レモン棒飴、バター飴玉。粗目糖顔の娘がクリスチャン・ブラザーズの男にせっせとクリームボンボンを掬っている。小学校のお楽しみ会だろか。ぽんぽんによくないよ。…”（U-Y 8. 261）

Episode 9: Scylla and Charybdis

門	談	光	魂	震	鷹	墜	巴
間	論	神	知	霊	梟	S	己
聞	語	幕	戯	劇	父	子	牛
問	説	床	翁	狂	讐	志	遺

“慇懃に、場を和めるべく、篤震の図書館長が喉ふるわせた。
ーそれにウィルヘルム・マイスターのあの貴重な一節もあるわけだから。偉大な詩人が偉大な同胞詩人を論じている。逡巡する魂が、葛藤する疑念に引裂かれつつ、苦難の海に立ち向かう。”（U-Y 9. 315）

Episode 10: Wandering Rocks

督	行	合	輪	馬	銭	刻	父
列	多	対	回	鳥	弧	落	交
門	路	像	橋	潟	窓	泥	海
扉	面	鏡	鍋	煮	乞	貧	貝

修道院長イエズス会士ジョン・コンミー師は、てかてかの懐中時計を内ポケットに戻しながら、司祭館の階段を下りた。三時五分前。アーテインまで歩いていくにはちょうどいい。ええ、あのこの名前は何といった？　ディグナム。そう。真にふさわしく義しきかな。

（*U*-Y 10. 373）

Episode 11: Siren

歌	音	色	金	銅	馬	人	食
杖	叉	鍵	聾	禿	鱈	魚	酒
調	鳴	唱	奏	笑	揺	聴	煙
海	潮	波	漣	貝	鈴	耳	屁

青銅と金の連が蹄を聞いた、鋼鳴りを。
こなまこしゃくしゃくしゃくしゃ
ふぁらら、ごつい親指爪からつまんで剥がしてふぁらら、ふぁらら。（*U*-Y 11. 433）

第11挿話を読んで…

- 原文はもっとリズミカルなのかと思いました。
- 音だけでなく字面でも音楽を奏でているように見える。ひとりひとりに楽器が割り当てられている仮定して読むといろいろ腑に落ちるところがあったりで楽しい。
- 断崖絶壁。
- 語順がごちゃごちゃで、思い切り惑わされ、読むのがとても疲れました。
- 面白いわりに地味で印象に残りにくい章。
- 音の波及効果。
- 第3挿話に続く難易度の高い挿話。内容はさておき音を感じ取るように読み進め、　①文章を読むことによる音　②生活から生じる音　③実際の音楽　④欲望など内的な心の声や叫び、そのような音が何重奏かに構成された挿話と捉えるように読んではみたが、内容は掴みづらい。ボイラン嫌い！
- むずかしい。序章ばかり読んでいます。誰の声か分からないポリフォニー。

第11挿話を読んで…

- 悲壮でも悲惨でもなく、多分に哀切だけれど、哄笑に満ちた可笑しさを愉しんだ。

- （第一声としては難しいというか取り付く島がないというか・・・ですが）『ユリシーズ』内で語られている（明示されている）一節（エピソード）なのかどうかが、気になると箇所が、（第一挿話以来ずっと）散見される。たとえば、鼎訳p.231、「サンザシの谷」への注p.568は、「「～あった」と（この一節自体から）理解できる」ということなのか、本テキスト（『ユリシーズ』）外に何かしら出典（外典、たとえば『ダブリン市民』）があるのか、これが分からない。外典がある場合は「恩寵」や『肖像』と記載されるのがルールで、ない場合は、「ここから理解できる」としていいのだろうか。もう一例挙げておきます。鼎訳第一巻p.383「例の富籤の件で支部の集会があったとき」への注p.591に「～ブルームは～逮捕されかけるが」という注釈に示される小説内事実は、おいおい『ユリシーズ』内で語られるのか、それとも外典が出典となる一節なのか。

第11挿話を読んで…

- 一読したときはわけがわかりませんでしたが、再読、三読するうちに、全部解明しないまでも、そのリズムにのせられていくことに気づきました。細かい場面転換、現実のせりふと回想の意図的な混在がなんともいえない雰囲気を醸し出しています。

- 当時の歌曲で表現されているようなロマンチックで耽美な文言が散りばめられていたので楽しく読み進めることができました。やはり至る箇所が謎だらけですが…第11挿話にして初めて原文を読んでみました。（YouTubeで見つけた原文朗読を聞きながら）朗読の印象も含めた原文と柳瀬訳ではやはり読後感が異なりあらためて翻訳の読書体験について考えさせられました。

【第1部】主催者発表：セイレーンの歌声に誘惑されない方法

（1） 第11挿話のプロットとナレーション（小林・南谷）

（2） 誘惑の音楽（平繁）

（3） 偶然の音楽（小林）

（4） 数字の音楽（南谷）

第11挿話のナレーション：時間と記憶、音の間を跳躍する語り（南谷）

David Hayman, Ulysses: *The Mechanics of Meaning* (U of Wisconsin P, 1970, 1982)で提唱された**「謎の操作的な力」=アレンジャー**について

> “a figure or a presence that can be identified neither with the author nor with his narrators, but that exercises an increasing degree of overt control over increasingly challenging materials” (Hayman, 84)

> “… the arranger controls the suppression of information and action, an extremely frequent occurrence in early chapters. Indeed, just about any intrusive or arbitrary phenomenon should be attributed to the arranging persona. We may add that such manipulative procedures usually announce symbolic and thematic resonances while undermining the realistic texture. ” (Hayman, 125)

→著者や語り手とは同一視できず、 挿話が進むたびに難解になるテクストの素材に関して、あからさまな操作を行使してくる存在。物語を読む読者に特定の情報を出さないでおいたり、ある登場人物の行動を明示しないような操作を行う。語りのなかに割り込んでくるような資質や恣意性を感じたら、そこには「アレンジャー」がいるかもしれない。象徴性や主題が共鳴していることを強調する一方で、（読者が感じる）物語の現実性を掘り崩す傾向がある。

第11挿話のナレーション：時間と記憶、音の間を跳躍する語り（南谷）

　ベンは憶えていた。幅広の面相に驚嘆の色が浮ぶ。
てへっ、豪勢なオペラ衣装とかなんとかまで持ってたね。 デッダラス氏がパイプを手にぶらりと戻って来た。
ーメリオン広場スタイルよな。舞踏会ドレスだの、 てへっ、宮廷ドレスだの。 しかもあの男［=ブルーム］、まるきり金を受取ろうとしなかった。だろ？　まあごっそり、 三角帽だのボレロだのトランクホーズだの。だろ?
ーそう、そう、 と、デッダラス氏がうなずいた。 マリアン・ブルーム夫人はありとあらゆるたぐいの脱ぎ捨てがお好きだ。
　チン鈴軽やか二輪馬車が船寄通りを行く。無礼児図体伸ばして跳ねるタイヤに運ばれて。
　レバー・アンド・ベイコン。ステーキ・アンド・キドニーパイ。かしこまりました。それでいいよ、パット。
　マリアン様。 会った者定め難輪廻し。 焦げくさいわ。 ポール・ド・コックのを。名前がいいじゃない。
ーその彼女、名前は何だったけ。丸ぽちゃ娘。マリアン……？
ートゥィーディー。（U-Y 11.456-57）

第11挿話のナレーション：時間と記憶、音の間を跳躍する語り（南谷）

Ben remembered, his broad visage wondering.
—By God, she had some luxurious operacloaks and things there.
Mr Dedalus wandered back, pipe in hand.
—Merrion square style. Balldresses, by God, and court dresses. He wouldn't take any money either. What? Any God's quantity of cocked hats and boleros and trunkhose. What?
—Ay, ay, Mr Dedalus nodded. Mrs Marion Bloom has left off clothes of all descriptions.
Jingle jaunted down the quays. Blazes sprawled on bounding tyres.
Liver and bacon. Steak and kidney pie. Right, sir. Right, Pat.
Mrs Marion. Met him pike hoses. Smell of burn. Of Paul de Kock.
Nice name he.
—What's this her name was? A buxom lassy. Marion ...?
—Tweedy.
(U 11. 490-503)

第11挿話のナレーション：時間と記憶、音の間を跳躍する語り（南谷）

Ben remembered, his broad visage **wondering**.
—By God, she had some luxurious operacloaks and things there.
Mr Dedalus **wandered** back, pipe in hand.
—Merrion square style. Balldresses, by God, and court dresses. He wouldn't take any money either. What? Any God's quantity of cocked hats and boleros and trunkhose. What?
—Ay, ay, Mr Dedalus nodded. Mrs Marion Bloom has left off clothes of all descriptions.
Jingle jaunted down the quays. Blazes sprawled on bounding tyres.
Liver and bacon. Steak and kidney pie. Right, sir. Right, Pat.
Mrs Marion. Met him pike hoses. Smell of burn. Of Paul de Kock.
Nice name he.
—What's this her name was? A buxom lassy. Marion ...?
—Tweedy.
(U 11. 490-503)

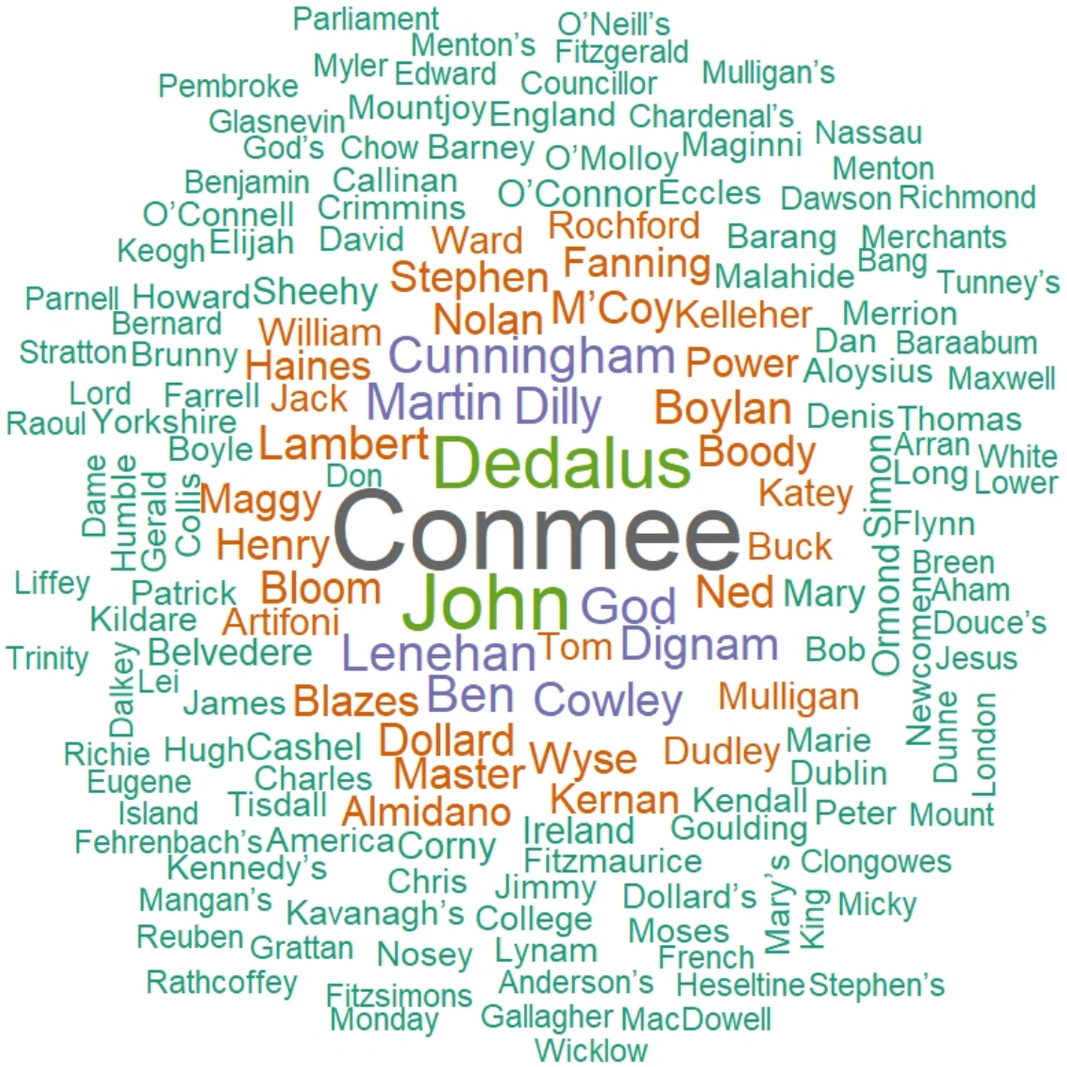
MB→ U 4. 380

MB →U 4. 358

【第1部】主催者発表：数字の音楽

“Do anything you like with figures juggling. Always find out this equal to that. ”
(U 11. 832-33)

数字の手品で好きなようにできる。これはこれに等しいというのが必ず見つかる。（U-Y 11.472）



第10挿話における固有名詞のワーククラウド
（品 詞 形 態 ［固有名詞 NP］、Cutoff 値2、変数168）

次回：第12回読書会について

次回の第12回読書会（第12挿話：キュクロプス）は6月27日（日）にオンラインで実施します。具体的な日程と予約開始日はtwitter（@YMINAMITANI）とStephens Workshopのホームページでお知らせします。後ほどアンケートフォームを別途送付しますので、今回のご感想・改善点について教えていただけると幸いです。

本日はご来場いただき、ありがとうございました。（南谷・小林・平繁）

次回：第11回読書会について

次回の第12回読書会（第12挿話：キュクロプス）は6月27日（日）にオンラインで実施します。具体的な日程と予約開始日はtwitter（@YMINAMITANI）とStephens Workshopのホームページでお知らせします。後ほどアンケートフォームを別途送付しますので、今回のご感想・改善点について教えていただけると幸いです。

本日はご来場いただき、ありがとうございました。

（南谷・小林・平繁）

STEPHENS WORKSHOP
A Critical Directory of Joyce & Irish Studies